

今年度発刊の文芸誌「三潮」第47号の記事が東奥日報社朝刊（2024年1月4日付）に掲載されました。

県教育厚生会（渡部秀逸理事長）は、文芸誌「三潮」第47号Ⅱ写真Ⅱを発行した。文筆家・能町みね子さんの特別寄稿「人口120万人の青森市にて」をはじめ、教職関係者51人による短歌、俳句、川柳、エッセー、詩、小説、文芸評論などを掲載している。

能町さんの特別寄稿は、人口120万人の大都市に発展した架空の青森市に張り巡らされた鉄道網を詳しく説明。路面電車や地下鉄にとどまらず、柳町から青森空港を経て中央弘前駅までを結ぶ「弘前電鉄本線」、青森駅から鶴ヶ坂、大釈迦を経て津軽五所川原駅に至る「津軽鉄道本線」など近郊路線も充実した「妄想」を披露してい



51人が作品投稿 文芸誌「三潮」47号発行

る。巻頭グラビアは、竹園正敏さんが下北ジオパークの魅力を紹介。文芸評論は、山本隆悦さんが「南部弁・下北弁の小説家たち」と題し、八戸市出身の木村友祐さんとむつ市出身の故向井豊昭さんの作品を対比しながら方言による表現の可能性について論じている。

このほか、田澤文雄さんの紀行・ルポルターージュ「奇跡の誕生、りんご『ふじ』」、2023年7月に亡くなった鎌田徹郎さんの自伝「南部の山里に津軽のネプタ、そして子ども会」、竹浪和夫さんの小説「村の掟」などを掲載。編集委員の浅利正人さんは、編集後記で投稿者数が減少傾向にあることに触れつつ、「まずは自分の原稿を1冊でも良くしよう」と自分で奮闘・努力することが何よりも大切なのではないだろうか」とつぶ

った。

頒価千円。問い合わせは県教育厚生会（電話017・721・1310）へ。

（成田亮）

※この画像（記事）は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです。